

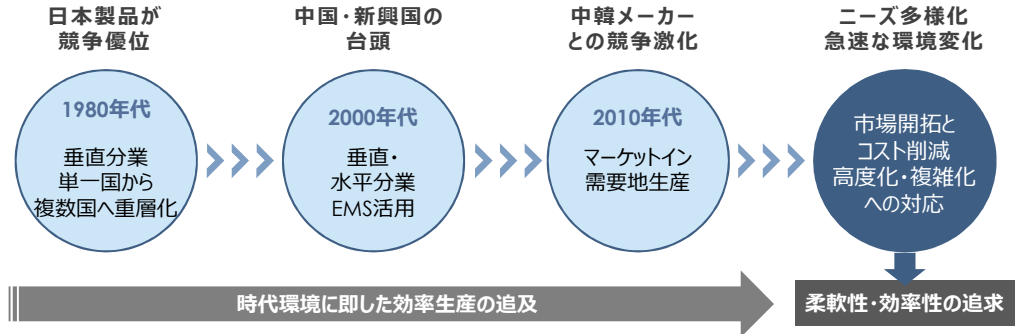
本調査では、アジア地域における主要グローバル企業のサプライチェーン戦略やその特長を調査・分析することにより、今後の日系白物家電メーカーが取るべき方向性を提言する。

- 日系メーカーは、1970年代以降、時代に応じた改変を繰り返し、効率生産を追及しながらサプライチェーンのグローバル化を遂げてきた。
- 中国・韓国メーカーは1990年代から台頭し、デジタル技術を活用しながら、川上から川下をつなぐオープンなグローバルサプライチェーンを当初から設計し、多様化・グローバル化に柔軟な対応を志向している。
- 今後のVUCA※時代においては、効率生産だけではなく、あらゆる事態への対応が可能な柔軟性が鍵となる。
- 優位性を再び獲得し白物家電分野で生き残るためには、製品設計へのニーズの取入れやリスク発生時の柔軟な生産拠点の見直し等を可能とする「頑丈かつしなやかなグローバルサプライチェーン（レジリエント・サプライチェーン）」の構築が不可欠である。
- 日系白物家電メーカーには、DXの強力な推進によるグローバルサプライチェーンの一元管理の導入や、リスクに対する経営思想の転換など、抜本的な改変・改革を断行する覚悟と実行力が求められる。

※将来の予測が困難な様子のこと。Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の頭文字から成る。

効率生産追求型のサプライチェーンから、不確実な時代に備え柔軟性も兼ね揃えたサプライチェーンへ

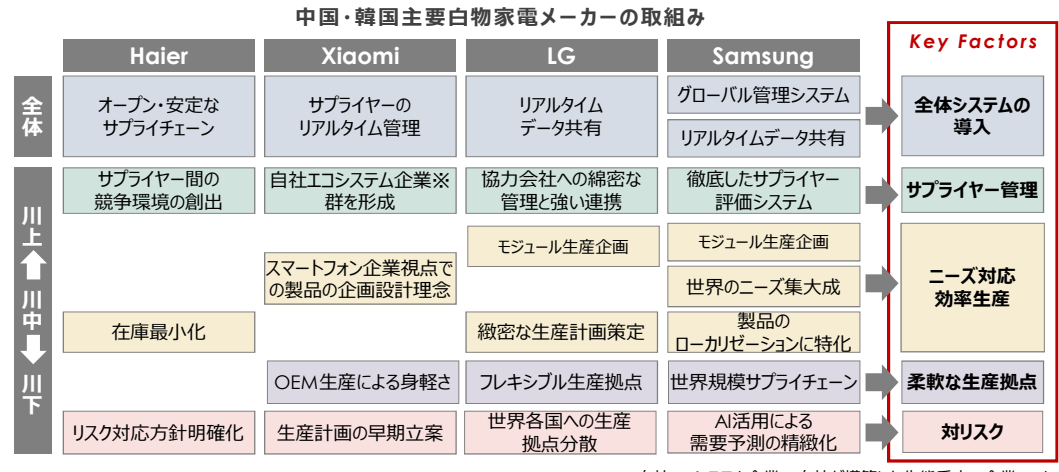
- 日系メーカーのサプライチェーンは、生産効率向上を**主目的**として変遷
- 中国マーケットの成長や新興国台頭により、**海外展開の目的が新市場開拓**にも拡大
- 新興国や途上国市場の成長に伴い、市場開拓とコスト削減の組み合わせ等、**問題が高度化、複雑化**
- 今後は時代の流れや外部環境に迅速に対応できる**柔軟性も兼ね揃えた**サプライチェーン構築が必要



中国・韓国メーカーは、全体を一体的に管理できるグローバルサプライチェーン管理システムを構築し、市場を獲得

- 中韓メーカーはサプライチェーンマネジメントにおいて、共通して**川上～川下の連鎖を実現する仕組み**を構築
- 主要4社の特長は以下の通り

- ✓ **Haier**：オープンサプライチェーン、サプライヤー間の競争環境の創出
- ✓ **Xiaomi**：自社のエコシステム企業※を軸に、資産を保有せずスリム化したサプライチェーン
- ✓ **LG**：モジュールをベースとした製品による多様なニーズへの対応、リアルタイムのデータ共有、フレキシブルな生産拠点を構築
- ✓ **Samsung**：世界規模のサプライチェーン管理システムの徹底した運用

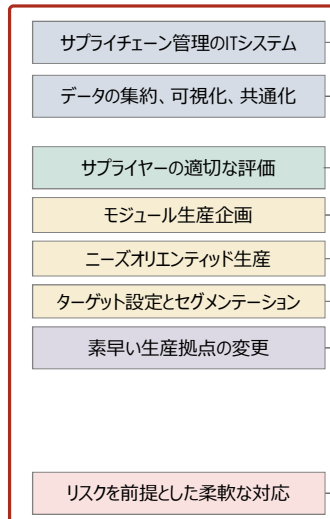


※自社エコシステム企業：自社が構築した生態系内の企業のこと

提言：グローバル競争力強化に必要なオープン、効率的、柔軟なサプライチェーン構築のための5つの方向性

- 中韓メーカーのサプライチェーンは、**柔軟性と効率性の向上**を重視した仕組み
- ポイント
 - ✓ **情報がオープンなシステム**
 - 変化の激しい環境下で効率性と柔軟性を高めるために、情報が共有されるオープンなシステムによる「グローバルサプライチェーンの一元管理」を構築する
 - ✓ **無駄のないスマートな効率性**
 - サプライヤー管理の高度化、多様なニーズに応えつつ生産効率の維持を図る
 - ✓ **市場変化やリスクへの柔軟性**
 - 複雑化するリスクと急速に変化する多種多様なニーズに柔軟に対応するために、リスクを先読みし備える「レジリエント・サプライチェーン」を実現する

Key Factor毎の中韓メーカーのサプライチェーンの特長



提言：5つの取るべき方向性

